



第 38 号 2019 年 5 月

発行者：NPO 法人 介護の家コスモス男山  
〒614-8372

八幡市男山笹谷 4-2 D19-106

TEL：075-983-2737 FAX：075-983-2746

e-mail：kosumosuot@gol.com

ホームページ検索用語 ⇒ 「コスモス男山」

## 暴力への敏感なアンテナを！

今年 2 月に起こった千葉県野田市の少女の虐待死。また、やりきれない事件でした。野田市に転居前、沖縄の糸満市に住んでいた時は、母親が暴力にさらされていました。繰り返される暴力が今度は娘に及ぶかも知れないと、何度も自分の母親や医師に訴え、少女の祖母は学校や市役所に度々足を運びました。でも、声は届かなかった。

DV と子どもへの虐待は一体化して起こる、という構図が明らかになっているのに、女性と子どもを連動して守る支援システムが、ほとんどありません。

この事件ほど苛烈ではないにしても、暴力の萌芽は、私たちの日常にさりげなく潜んでいて、身近な人を、力で支配＝コントロールする場面は少なくないように思います。愛しているから、しつけや指導、相手の安全を守るため、などの名目があれば、相手の自己決定を奪っても、暴力の意識が希薄で、自分の加害性に気がつかないのです。それは同時に他の暴力や加害性にも気づかないということです。

DV、ハラスメント、いじめ、虐待…。呼び方は違いますが、どれも一過性のものではなく、家庭・学校・職場・地域など一定の人間関係の中で継続的に加えられる暴力で、本質は同じです。

コスモスでは、どんな理由でも、力で利用者の動きを封じること、頭ごなしに利用者の願いを無視することはありません。「人としての尊厳を大切に」という理念とそれを試行錯誤しながら具体化してきた歴史があり、職員の自覚があるからです。入所当初は不安定だった方も、他の利用者に関心を持ち、穏やかな表情が増えてくるのは、事業所に慣れたというだけでなく、一人ひとりが大切にされている雰囲気を感じるからだと思います。

この豊かな土壌を、もっともっとみんなで耕していきたい。心からそう思います。力を濫用して人が他人の境界を侵害する事のないよう、法律やシステムの整備はもちろんです。一人ひとりが暴力への感度のよいアンテナを持って、それぞれの場で抑止力となっていかなければ、と思います。



理事 萬田久美子

# コスモス アラカルト

## 桜 サクラ さくら



開花宣言後に冷え込む日が続き、今年の桜は長持ちしました。なんだか得した気分です。コスモスでは2班に分かれて花見に行きました。1班はさくら公園、2班は八幡山です。

さくら公園は満開で満員。運よく腰掛けるのにぴったりの石垣の特等席を見つけ、ヤッター！広場全体の桜がしっかり見渡せます。豪華な花をひとしきり堪能したあと、ひとりが花の近くに寄り、美しさ比べを始めました。私も比べてみると次々に花の下へ。甲乙つけ

がたい？方々に囲まれ、桜も苦笑いしているようでした。

八幡山も春真っ盛り。いつものように花の下で、お茶とミニぼた餅をいただきました。迷惑をかけるからと直前まで迷っていた方も、「やっぱり来てよかったよ」と嬉しそうです。桜はみんなを元気にする花だ、とあらためて思いました。

## 年長さんがやって来た

4月から年長組になる「わかたけ保育園」の20人が、いつものようにコスモスにやってきました。

「ほっほっほ」と「チューリップ」を手話を交えて歌ってくれました。今年は、利用者がお返しの歌を準備しました。毎朝歌っているコスモスのテーマ曲「朝はどこから」と、振り付けをつけた「春が来た」を合唱しました。

最後に「また来るね」と言いながら、園児たちは利用者さんと握手。おばあさん、おじいさんたちも、普段は見ることのできないような素敵な笑顔で、“ひ孫”たちに応えていました。



## 名作をよむよむ



毎月来てくださる朗読ボランティア「よむよむ」。今回はみんなで音読に挑戦しました。

まず、「よむよむ」のメンバーが、名作「手袋を買いに」(新美南吉)の冒頭部分を大きな声で読み上げ、次に利用者の方々が声を合わせて後を追うスタイルです。学校のときを思い出したのでしょうか、みなさん、しっかり後に続いていました。

# コスモス・オレンジカフェ

コスモス・オレンジカフェは、2015年10月から始めました。八幡市内には、ほかに2箇所のオレンジカフェがありますが、事業所が単独で開いているのはここだけです。

**NPO法人 介護の家コスモス男山 主催**

**コスモス**  
**オレンジカフェ**  
へのお誘い

最近 もの忘れがひどくなってきたなあ…  
調理がスムーズにできなくなってきた…  
家族が軽い認知症じゃないかと心配だが、どこに相談すればいいのかわからない…



オレンジカフェは、認知症など気になることを相談したり情報交換したりする場です。同じような悩みを抱えている方の話や専門家の知恵を聞くと、きっと元気になります。どなたでも気軽にご参加ください。(申込不要)

<b>日時</b>	毎月第3土曜日(裏に日程表) 午後1時30分～3時まで
<b>会場</b>	喫茶「おいでやすコスモス103」 (男山団地D19-103)
<b>参加費</b>	一人 200円(飲物・菓子代)



☎ 問合せ先: 介護の家コスモス男山 TEL075(983)2737

オレンジカフェは、もともと「認知症カフェ」という名前で2010年前後にオランダやイギリスで始めました。京都府では、2012年頃から京都市内や宇治市で、数箇所のカフェが開かれるようになりました。現在、全国では約6000、府内だけで150箇所のカフェがあり、連絡会もあります。

ただ、「認知症カフェ」という名前だと、そうでない市民は行きにくくなります。認知症であるなしに関わらず、相談したり、認知症について学んだり、老いについて話し合ったりする場でありたいとの願いで、「オレンジカフェ」と呼ばれています。

コスモス男山では、毎月第3土曜日の午後1時30分から3時まで、D19棟103の喫茶「おいでやすコスモス103」でカフェを開いています。毎回、新聞などで取り上げられた認知症の話題でミニ講座をしたあと、コーヒーや紅茶

とお菓子をいただきながら、自分の経験やどうしたらいいか困っていることなどをおしゃべりします。

ハーモニカの演奏をしてくださる方が来て、みんなで季節に因んだ曲を歌うこともあります。

もちろん、認知症等にかかわる個人的な相談も受け付けています。そんなときは、別の場所を設けて、お話を伺うので安心です。

参加費は200円(お茶と菓子付き)。あなたもぜひ、一度いらしてください。



ときにはハーモニカあわせて、みんなで歌います

## 府南部小規模多機能型居宅介護連絡会 介護職員情報交換会

府南部小規模連のメンバーは、八幡市、長岡京市、宇治市の5事業所です。毎年2回情報交換会を開催し、交流を深めています。今回は、介護職員の悩みをテーマに、各事業所から課題を出してもらいました。

「通い」の利用者で、ご家族の都合で夜7時～9時まで預かってほしいとの要望があった場合、どうしたらいいのか、について話し合いました。24時間365日の介護対応が小規模多機能の特徴です。短期間や緊急時の延長要望には、どの事業所も応じています。

しかし、長期間となると、職員体制との関係で難しい事業所もあります。例えば24時間職員のいるグループホーム、サービス付き高齢者住宅と小規模多機能を併設している事業所は、比較的柔軟に対応できますが、単独で運営している事業所では、大きな負担になります。また、延長の料金をいただくか、いただかないかも、事業所によって異なります。規定がないだけに悩ましい問題です。利用者・ご家族と話し合い、歩み寄ることが大切であることを確認しました。



ご家族の協力についても、話し合いました。ある事業所では、朝7時半に迎えに来て、帰りも夜9時ごろ、土日にも休まず、朝昼晩の食事提供も希望してきた方がいらしたそうです。「在宅」と言えるのだろうか、疑問の声が出ました。介護保険ですべてを賄うことはできないので、理解してもらったうえでサービスを利用してもらうことも必要ではないか、との意見もありました。

(事務局 河上高志)

## 認知症介護実践者養成（管理者）研修

主催：京都府 講師：府職員、各施設長、事業所長など

認知症の方が利用する通所サービス、グループホームの職員を対象にした研修でした。地域包括ケアとはどのようなことか、虐待防止と権利擁護、地域密着型サービスの取組み、サービスの質を向上するために何をすべきかなどについて、講義だけでなくグループワークもしながら考えました。日頃の仕事と重なる内容が多く、よく理解できました。

大きな施設では「忙しい」「時間がない」「ほかの業務がある」と逃げている職員がいるが、本来、私たちの“業務”は利用者のケアではないか、という話がありました。そのとおりだと思いました。そこを間違えないように進んでいこうと思います。

また今回の研修で、「リスクコミュニケーション」という言葉を知りました。コスモスでは認知症の方に、拘束は絶対にしないという理念の下、過ごしてもらっています。しかし、万が一、それでアクシデントがあった場合、どうするのか。そのようなリスクについて、家族と話し合っていますか、リスクコミュニケーションをしていますか、という問いかけです。これから避けては通れない問題だと感じました。



(所長 原田 ゆかり)

コスモス・カルチャー

俳句

- 美ら海よ 希望の種を 蒔きし今
- 比良借景 菜の花明かりの 直中ただに
- 宿直の 明けや矢車 まわる音
- 親しげに 吾につき来る 袋角
- かの日にも 鶯鳴くや 正法寺
- 居座機 越後上布の 女無口ひと
- 湯煙たゆたに 揺蕩ゆたう 中に紅椿
- トロッコ道 朽ちゆく枕木 ニリン草
- 吸い込まれ 遊泳したい ブラックホール

桂

三代子

みやこ

路加

利用者さんの作品



ぱすてるで描いた絵手紙

川柳

- 迷い猫 駅長となり 招き猫
- 鉛筆が 折れる心が 折れる音
- 甲子園 プロスカウトの 値踏み戦
- アベノミクス 綻び繕う 「令和」元年
- 森・加計 幕引き図るも 続々と

桂

コスモス童

書名	著者	発行所
介護士K	久坂部 羊	角川書店
麻原彰晃の誕生	高山 光彦	新潮社
唐牛伝	佐野 眞一	小学館
日本が売られる	堤 未果	幻冬舎
子供の貧困	渡辺 由美子	水曜社
不良老人の文学論	筒井 康隆	新潮社
ドイツ革命	池田 浩士	現代書館
穏やかな死のために一終の棲家 芦花ホーム物語一	石飛 準三	さくら社
抱擁	辻原 登	小学館
カラス学のすすめ	杉田 昭栄	緑出版
漂砂の塔	大沢 在昌	集英社
すみません、介護のしごと楽しいです	のち りょうこ	第三書館
不道德お母さん講座	堀越 英美	河出出版
悪玉伝	浅井 まかて	角川書店
入院・介護のお金	新美 昌也他	技術評論社

事務局より

- ・「ふきよせ」さんより捨て布を
- ・藤井さんよりコーヒーカップを
- ・石川さんよりタオルを
- ・元利用者、鈴木重利さんの奥様よりお手製の  
カステラを頂きました。

有難うございました。



- ・3月中旬に給湯器の故障によって入浴が不可能になった折、  
利用者さんのご家族・杉谷さんの奔走により、3日後には復旧  
しました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

花盛りの季節です。散歩の折、草花や樹木の花を眺め、足が止まります。人それぞれに花への想いや記憶があることでしょうか。考えてみれば、人間と花とのかわりには深い歴史と物語があり、世界中の人々がそれぞれの風習で花を愛でてきました。花を飾ったり、「花ことば」、「花の歳時記」、「花占い」、などとして生活の中の楽しみとなっています。

稲作を中心とする日本の農耕社会でも花との関係を密にしてきました。五穀豊穡と家内安全を願う「奥三河の花祭り」は農耕儀礼の代表例です。

なかでも、「ハナ」といえば、「サクラ」といわれるぐらいに桜は、米作りとの関係から日本人の生活の隅々に浸透しています。そのため、いろんな儀式や行事が繰り広げられてきています。

仏教では、蓮の花が主役ですが、お釈迦様の誕生をお祝いする「花祭り」には、花御堂に誕生仏を安置し、甘茶をかけてお祈りします。「散華」儀式もあるごとく、仏様は、美しく、香しいお花が大好きだそうです。

花が咲けば、献花祭、散れば、悪霊払いの花鎮祭。花にまつわる宗教行事は、その美しさへの感動を超え、精霊が宿っていると感じるゆえの祈りや供養なのでしょう。

春は花に振り回される忙しい季節ですが、桜は、落花の後、来年の開花のために準備を開始することです。わたしたちも来年に向けて、それぞれの年齢の花を咲かし続ける準備をし、美しい自分に出会える春爛漫の祝宴をしたいものです。(三禮)